

坂出郵船組

JFES製
鋼管など

鋼材荷役を開始
倉庫完成、保管能力500トン

【坂出】港湾荷役の「坂出郵船組」(本社〓香川県坂出市、綾政彦社長)は、坂出港・林田地区で建設を進めていた鋼材倉庫が完成し、4日から荷役を開始した。JFES物流と委託契約を結び、造船向け鋼管、厚板、形鋼などのJFESスチールの製造する鋼材を中心に、月間2,000トンを扱う。今後の主力事業の一つと位置付け、扱い量の増加を目指す。将来的には倉庫の新設・増築も視野に入れる。「林田鋼材倉庫」は、坂出郵船組が所有する約2万平方メートルの敷地を、活用し、建設した。倉庫の面積は1,600平方メートル、7・5メートルの天井・柱・レンガ基礎を備える。倉庫の屋外置き場には15メートルの片脚レール1基を設置した。鋼材保管能力は500トン、隣接する公共岸壁・水深14メートル、全長400メートルには3万トン以上の大型船も接岸できる。鋼材物流の中継基地としては最適な立地だ。坂出市は周辺に大手造船所や重工業メーカー

竣工式でのテープカット(左から池田社長、松永部長、綾社長、澤常務執行役員)

完成した鋼材倉庫

などが製造拠点を構えており、鋼材需要の高い地域。新倉庫ではJFESスチールのほか、神戸製鋼所、大阪製鉄、中山製鋼所が製造する鋼材の水切りも行う。当面の月間扱い量は2,000トンプラスアルファを見込むが、早期に5,000トンまで引き上げたい考えだ。3日には竣工式を開き、JFESスチールの松永司・理事・物流総括部長、吉村健・四国支社長、JFES物流の澤幹夫・常務執行役員、メタルフブリカの坂本貴社長、大栄鋼業の川口社長、倉庫の設計施工を手がけたヒカリの池田孝道社長ら関係者約40人が出席した。式典で綾社長は「当社は1989年、明治22年に創業し、さまざまな貨物を取り扱ってきたが、鋼材荷役への進出は長い歴史の中でも大きな転換点となる。当初、2,000トンからスタートするが、2,500トン、3,000トン、5,000トン、そして第二期工事による拡張を目標に頑張っていく」とあいさつ。続いて、JFESスチールの松永物流総括部長がこの計画は2015年5月に、2010年3月のパイプを中心に、坂出郵船組さんとの縁をいたいたい。この倉庫が「宝の倉庫」となることを期待していると述べた。

15年5月に、2010年3月のパイプを中心に、坂出郵船組さんとの縁をいたいたい。この倉庫が「宝の倉庫」となることを期待していると述べた。